



よろい
甲を着た古墳人だより



公益財団法人
群馬県埋蔵文化財調査事業団

「甲を着た古墳人」が発見されて 4 カ月後の平成 25 年 3 月に、古墳人が見つかった位置から南へ約 110 m 離れた調査区から、6 世紀初頭の榛名山二ツ岳の噴火で降り積もった火山灰 (Hr-FA) の中で 1,500 年前の人の足跡や馬の蹄跡などが見つかりました。これらは甲を着た古墳人とほぼ同時期のものです。今回は、この足跡に注目してみましょう。



1 区 3 号道から出土した古墳人の足跡 (写真上が西)

白線で引かれた小さなくぼみが、足の指先まで残る古墳人の足跡と馬蹄跡です。長さ約 12 m、幅約 3 m ほどの範囲に古墳人の足跡 114 個、馬蹄跡 29 個が見つかりました。

■ 古墳人の足跡を調査する

発見された古墳人の足跡は、親指から小指の先の小さなくぼみまで残っているものもあります。これらは繊細で壊れやすいため、中に埋まっている火砕流を除去するために、掃除機やエアースプレーなどを使って丁寧に足跡を調査しています。



■これが古墳人の足跡だ

古墳人の足跡は、榛名山ニッ岳の火山灰（Hr-FA）の最初に降下した火山灰を踏み込まれたものが、火砕流により覆われていました。古墳人が歩いていた道は、火山灰が降下する以前から道として使われていました。足跡は約 11 cm～25.5 cm の長さで、複数の人々が榛名山を背に東の方向に向かって裸足で歩いていました。右上の写真は、長さ約 15 cm、幅約 6 cm の右足の跡です。大きさから子供とみられます。

古墳人の足跡の側からは、馬の蹄跡とみられる約 10 cm のくぼみも見つかっています。馬を引きながら一緒に歩いていたのでしょうか。右下の写真は長さ約 24 cm、幅約 10 cm で大人の右足とみられます。大きさや形の異なる足跡が見つかったことから、複数の古墳人がこの道を歩いて火山噴火から避難していたのでしょうか。



■古墳人の足跡を記録する

古墳人の足跡はそれぞれ写真撮影を行い、図面を作成しました。甲を着た古墳人と同じく、古墳人の足跡も三次元計測によって広範囲に計測を行いました（右写真）。また、シリコンや石膏を使って古墳人の足跡や馬蹄跡を型取りしました（下写真）。この足跡の型取りしたものは、発掘情報館で見ることができます。



当事業団ホームページをご覧ください。 <http://www.gunmaibun.org/>

